

平成 30 年度 奈良県知事賞

暮らしの中の税金

奈良県立磯城野高等学校 一年 平田 泰規

僕は中学校の時にも税の作文を書いた。その時に、税の収支の内訳を勉強して、役割は理解したつもりでいた。

しかし、税金といえば「無駄使い」と言われることが多い。公務員の給料も高いと言われるが、本当にそうだろうか。姉は教員をしている。姉の給料を時給に換算すると、派遣の教師の時給の方が高額だったし、派遣だと時間外手当が出るが特に教師の給料が高額だとは思わないし、楽な仕事だとは思わない。部活の顧問の先生は、休日でも大会や練習試合の引率をしてくれる。この夏の大会は多く連日先生方も大変だったと思う。中学の時の土日は一日中部活で先生は休みなしだった。逆に給料をもっとあげてほしいくらいだ。

そして、税金の使われ方は、もちろん公務員の給料だけでなく、もっと身近な所にたくさんある。小中学校も税金のお陰で教科書まで無料。高校生になり、初めて教科書を購入した。ゴミも僕の居住地は無料。水道は世界最高レベルの水質の水が安価で利用できる。警察、消防等の公共事業は全て無料だから、誰でも利用できる。この生活があたり前になっているから、有難みが分からなくなっているのではないか。

年金制度や、社会保障関係費もなければ、働けないお年寄りの生活ができなくなり、僕の祖父母も大変になる。そうすると父が両方の祖父母を養う事になり、僕の家計が苦しくなり、生活できなくなる。

また、近年多い地震や水害の復旧にも税金が使われている。異常気象で、いつか自分も被災者になるかも知れない。大地震も近年必ず起きると言われている。僕の高校の耐震工事費も税金が使われている。

物を購入すると、必ず支払う消費税、働くと所得に対してかかる所得税、車やガソリンにも税金がかかり、たくさん支払っているように思えるが、税金は自分に戻ってきている。納税することによって、社会は成り立っていて、税が暮らしを支えていることを理解しなければいけない。